

自然と、設計者と、幸運が一体となって生まれた名門コース 「日光カンツリー倶楽部」の 支配人に聞く

～10月16日、第90回日本オープンゴルフ選手権競技開幕！～

日光市街に程近い大谷川（だいやがわ）の河畔に広がる日光カンツリー倶楽部。

コースデザインは名匠・井上誠一氏（1908～1981）で、その設計の中でも特に評価が高い40歳代半ば・壮年期の傑作の一つとして、ゴルフファンが「一生に一度はプレーしてみたい」と望む名門コースです。

今年開場70周年を迎え、10月には男子国内ツアーの最高峰トーナメント・日本オープンゴルフ選手権が開催されるなど、注目が高まる日光カンツリー倶楽部。その歴史や魅力、今後の展望などについて、支配人の若林梅夫さまにお話を伺いました。

（聞き手：弊社社長 大森 範久）



日光カンツリー倶楽部
支配人

若林 梅夫

（わかばやし うめお）

男子のプロとトップアマが集結し、 最強のゴルファーの座をかけて戦う「日本オープンゴルフ」！ 日光CCの難コースを舞台に、白熱のドラマが展開される

——日本オープンの開催は、2003年（平成15年）以来
22年ぶり2度目ですね。

10月16日（木）から19日（日）までの4日間にわたって「第90回日本オープンゴルフ選手権競技」が当倶楽部で開催されます。開場70周年の記念すべき年に、男子メジャーの最高峰である日本オープンを迎え

られるのは、大変名誉なことです。いろいろ苦労もありますが、それに倍する楽しみがあります。

前回の68回大会は、深堀圭一郎選手が、最終日に5打差を逆転して優勝する劇的な展開でした。試合も大いに盛り上がりましたが、それ以上に当倶楽部では大会前から大変な盛り上がりで、大勢の会員がボラン



5番グリーン

ティアとして参加するなど、とても喜んでいただきました。

今回も、会員と一緒に素晴らしい大会にできるよう、努めたいと思います。

●第90回日本オープンゴルフ選手権競技

2025.10.16 (木)～10.19 (日)

賞金総額 2億1,000万円

優勝賞金 4,200万円

主催 公益財団法人 日本ゴルフ協会

共催 NHK

後援 スポーツ庁、栃木県、日光市、栃木県ゴルフ連盟

栃木県ゴルフ場協議会

協賛 一般社団法人 日光カンツリー倶楽部

●主な競技会の開催実績

1965年(昭和40年)

第2回ノムラカップアジア太平洋アマチュアゴルフチーム選手権

(日本チームが優勝)

1996年(平成8年)

第81回日本アマチュアゴルフ選手権

2003年(平成15年)

第68回日本オープンゴルフ選手権競技

2005年(平成17年)

第10回4カ国チーム選手権

2021年(令和3年)

第88回日本プロゴルフ選手権

——今はどんな準備をしているところですか？

今日も(取材:2025.7.23)、JGA(日本ゴルフ協会)の担当者が視察に来てコースを確認しています。通常5cmぐらいのラフを大会時には12、3cmに伸ばすとか、グリーンも硬く、速くなどの要望も多く、また男子の場合、ドライバーの飛距離が驚異的に伸びて、300ヤードを超える選手もおりますので、練習場の対応も必要になります。とにかく対応することがいろいろあります。

一番の心配は、当コースを日本オープンにふさわしい舞台に仕上げられるかどうか、ということですね。コースキーパーが、春から気合いを入れてやっている



2003日本オープン表彰式

ので、ここまではいい状態で来ていますが、夏をいかに越すかで、特にグリーンは変わってしまいます。当倶楽部は標高が高いので、いくらか涼しいとは言っても、今年の猛暑はちょっと大変ですね。



2003日本オープン18番グリーン



2003日本オープン1番ティ

「日光に栃木県人の手でゴルフ場を」との郷党の思いに応え、 名匠・井上誠一が雄大な日光連山の山麓に生み出した名コース

——倶楽部開設の経緯を教えてください。

日光カンツリー倶楽部の開場は、1955年（昭和30年）です。

戦後最初の民選知事である栃木県の小平重吉（こだいらじゅうきち）知事には、「世界に知られた日光に、観光施設としてのゴルフ場を、栃木県人の手で」という政策目標がありました。

1952年（昭和27年）、栃木県出身の財界の重鎮・加藤武男氏（三菱銀行相談役、吉田内閣経済最高顧問）と会談し、県が一次資金と用地を確保したうえで、建設工事も県営で行う、ということでゴルフ場の建設計画がスタートしました。翌年の発起人会には県知事、副知事、日光町、今市町、金谷ホテルなどが参加し、株主には東照宮、輪王寺、二荒山神社も名を連ねています。まさに日光を中心に、郷党あげてのゴルフ場建設だったようです。

建設候補地は中禅寺湖畔や霧降高原など幾つかあったようですが、視察の結果、コース設計者の井上誠一氏が選んだのは大谷川の旧河床でした。明治時代の2度の洪水でできた転石累々の荒地だったため、表土が薄くバンカーも掘れません。しかし井上氏は、

男体山に向かって緩やかに登る広大な土地と、自生する木々に可能性を感じたようです。当CCの『開場40年史』に掲載されている井上氏の計画書（昭和28年12月「日光ゴルフ倶楽部 Golf Course 並びに附帯設備新設計画」）には、「川柳や松林、樅などの木々に他所にはない趣があり、地形も変化に富んでいるので、木や流水などの自然を障害物として利用し、バンカーなどの人工の障害物はなるべく避けながら、プレーの興味が増大するように計る」とあります。



6番試験施工

50年後、100年後を思い描いた井上設計と周囲の自然が調和し、 複雑で魅力的なコースを作り上げる

——日光CCの特徴として、「2%勾配」や「天然のアンジュレーション」などがよく聞かれますが、具体的にはどういふことでしょうか？

当コースは18ホール、7,236ヤード、パー72、コースレート74.8です。

コースはほぼフラットに見えますが、全長約2,000mの上端と下端では50mの高低差があります。この2~3%の勾配は人間の感覚では認知できないため、距離感がつかみにくいのです。全てが打ち上げか打ち下ろしで、平らなホールはありません。ナイスショットだと思っても予想以上に転がったり、逆に止まってしまったり。この錯覚や転がり具合も、井上氏が用意した当倶楽部ならではの「見えないハザード」です。

また当コースでは、厳冬期にフェアウェイの表土が凍ります。春になってもなかなか溶けず、日当たりや土質、地下の状況などによって溶け具合も一様ではありません。それが毎年繰り返されることで、フェアウェイにうねりや、天然のアンジュレーションが生じます。

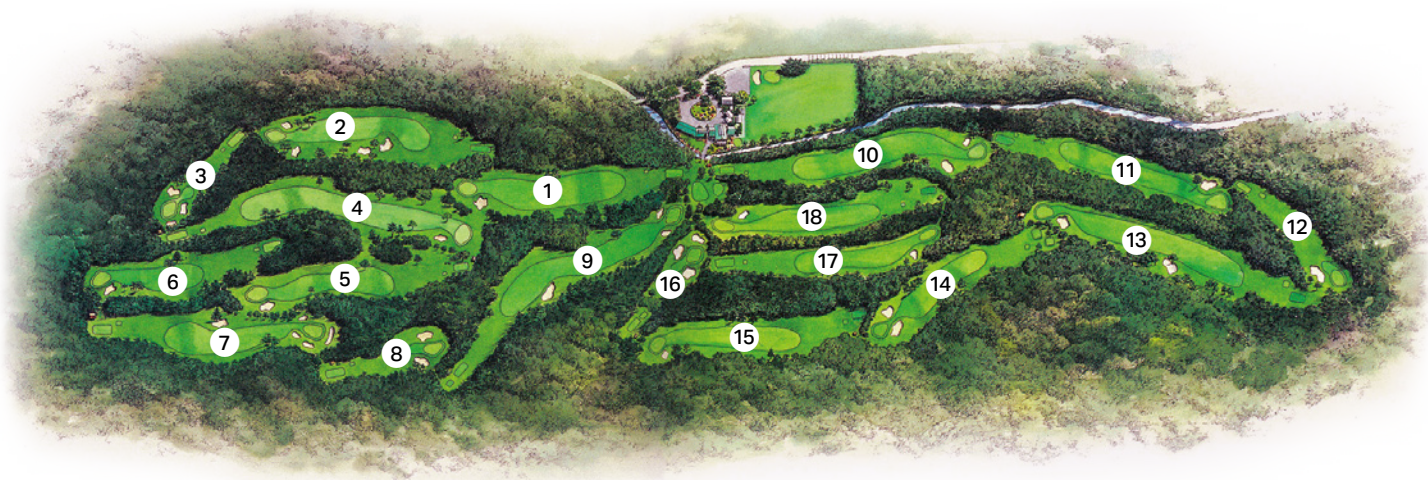
当コースの改修を担当した川田太三氏は、「(井上氏の)基礎造形に、長い年月をかけて、自然が歩み寄り、何とも言えない美しさを作り上げている」「ほんとの良いコースとは、自然(神)と設計者とそして幸運が

一体となって生まれたコースではないでしょうか」と語っています。

旧河床で表土が薄いため、池は無く、バンカーも36と少ないコース設計ですが、井上氏は、「フェアウェイバンカーは少ないが、松の枝が日光特有のハザードとなる」と何度も言っていたそうです。まさに周囲の自然が井上氏の設計と調和して、複雑で魅力的なコースを作り上げていると思います。



開場記念 高松宮殿下



日光カンツリー倶楽部(設計者:井上誠一)
ホール数 18ホール
コース全長 7,236ヤード
パー 72
コースレート 74.8



1番ホールティーから望む男体山

——グリーンの速さ、芝目の難しさもプレイヤー泣かせですね

男体山から吹き下ろす風の影響で、芝目は男体山から下へ流れます。コースの起伏とグリーンの傾斜、芝目の関係が複雑で、錯覚が起きます。アプローチミスが出やすく、難しい、ということになるのだと思います。

いわゆる受けグリーンはありません。受けに見えるものでも、打点から見えない奥が下っていたりします。

速くて止まりにくいグリーンが、コース全体の難易度を上げています。

——名物ホールは何番でしょうか？

名物ホールは「松の廊下」と呼ばれる11番(455Y・P4)ですね。まっすぐに長いミドルホールで、両サイドに松がせり出して、空中ハザードに



13番ホールティーから望む日光連山

なっています。フェアウェイは起伏に富み、右に左にボールがキックしてしまうので、落としどころが難しいホールです。

スタートの1番(419Y・P4)が好きだというお客さまも多いです。男体山を真正面に見て第1打を打ち出す、当倶楽部ならではのスタートホールで、その景観は、本当に素晴らしいと思います。

男体山に向かって打つ5番(444Y・P4)、13番(547Y・P5)の景色もお薦めです。コースと日光連山の間を遮る人工物が何もないので、清々しい気分でティーショットに臨んでいただけたらと思います。

——クラブハウスやロッジも「名門」に相応しい、趣のある建物ですね。

クラブハウスは10数年前に耐震リニューアルしま



11番ホール

したが、景観は昔のままです。

男体山に向かう上流側にアウト、下流側にインのホールを配置し、その中央にクラブハウスを置き、建物は太い材木を使ったテラスのある山小屋風にする、というのは井上氏の指示によるものです。オープンテラス席は高原のレストランのようだとあっていただけます。

クラブハウス前には谷川が流れていて、この川を渡ってコースに入るのも気分がいいですよ。ロッジに宿泊され、朝、このせせらぎの音で目覚めるのが良いというお客さまも多いです。



5番ホールティーから望む男体山

70年の時間をかけ、熟成された 豊かな倶楽部ライフをお楽しみください

—— ホームページに、「競技開催を視野に置いたコース整備と、社団法人としての使命を全うしつつ」とあります。日光CCが目指すもの、今後の展開などお聞かせください。

いつでも競技会が開催できるコースコンディションを保つこと、営利目的ではない豊かな倶楽部ライフをご提供する、ということでしょうか。

倶楽部の定款に「広く内外同好者の利用に備え、品格あるゴルフの普及、健康の増進及び社会道義の涵養を図ることを目的とする」とあります。井上氏も「ゴルフは遊びであり楽しみなんだが、粹で品がなければならない」と言っています。そうした倶楽部ライフを

誇りにしていただけるような、日光CCでありたいと思っています。

まずは日本オープンを成功裡に収めることです。そして競技の様子はNHKで放映されますので、全国のゴルファーの方にご覧いただき、「ぜひ日光CCでプレイしてみたい」と思っただけいたらありがたいですね。

紅葉がきれいなのは日本オープンの後、11月半ばぐらいです。ぜひ当倶楽部にご来場いただき、「70年の時を経て熟成を重ねたコースと、佳き倶楽部ライフ」をお楽しみいただければ幸いです。



クラブハウス



テラス

一般社団法人 日光カンツリー倶楽部

〒321-1421 栃木県日光市所野2833 TEL 0288-54-2128 FAX 0288-53-3047

開館時間：9:00～17:00 休館日 火曜日 <https://nikkocc.or.jp>